



おがさわら

# 議会だより

第 104 号

平成 24 年 6 月 2 日 発行 発行／小笠原村議会 編集／議会だより編集委員会 電話 04998-2-3118



渡辺防衛副大臣への陳情・挨拶

## 平成 24 年第 1 回村議会定例会

第 1 回定例会（議案審議）	2
一般質問	4
予算特別委員会	8
委員会報告	10
議会の動き・編集後記	12

第 1 回小笠原村議会定例会  
平成 24 年 3 月 8 日～ 23 日

【消防団条例の一部改正】

どこを変えたの？



消防団員が火災や捜索等で出動した際の費用弁償（日当）について、3 時間を超える場合、1 時間につき 1000 円を加算することにしました。

【村税条例の一部改正】

どこを変えたの？



国の法律改正に伴う、村税の条例改正です。震災による控除の特例などについて、条文を改正しました。

【介護保険条例の一部改正】

どこを変えたの？



国の法律改正に伴い、平成 24 ～ 26 年までの保険料率を改定しました。

【給水条例の一部改正】

どこを変えたの？



文言の整理をし、給水区域に父島に北袋沢地区、母島に評議平地区を書き加えました。

【財政調整基金設置条例の一部改正】

【減債基金条例の一部改正】

【公共施設等整備基金条例の一部改正】

【役場庁舎建設基金条例の一部改正】

【災害対策基金条例の一部改正】

【霊園基金条例の一部改正】

【観光振興基金条例の一部改正】

【簡易水道事業基金条例の一部改正】

どこを変えたの？



基金の名前などを修正し、文言を整理しました。

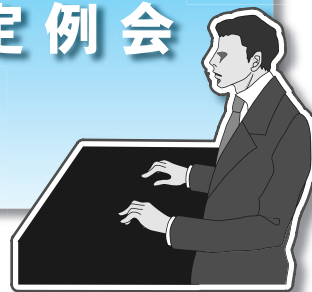
すべて、原案通り可決されました。

※分かりやすくお伝えするため、正式名称とは違う表記をしているところがあります。ご了承ください。



平成 24 年

第 1 回  
小 笠 原  
村 議 会  
定 例 会



条 例

【非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する  
条例の一部改正】

どこを変えたの？



専門委員を新たに新設し、報酬額を月 45 万円以内に決めました。

【職員の給与に関する条例の一部改正】

どこを変えたの？



一部の手当を月額から日額にするなどの改正を行いました。

【特定防衛施設周辺整備調整交付金事業  
基金条例（新設）】

【情報通信基盤整備基金条例（新設）】

【ふるさと寄附基金条例（新設）】

何が決まったの？



それぞれの事業の経費を積み立てて基金とするための決まりを条例で決めました。

## その他

(すべて賛成の議決をしました)

**小笠原村地域福祉センターの指定管理者の指定**  
指定管理者：社会福祉法人小笠原村社会福祉協議会

**奥村運動場の指定管理者の指定**  
指定管理者：社会福祉法人小笠原村社会福祉協議会

**ローズ記念館の指定管理者の指定**  
指定管理者：小笠原母島観光協会

小笠原村父島辺地及び母島辺地に係る公共施設の総合整備計画（平成 19 年度～平成 23 年度変更）  
小笠原村父島辺地及び母島辺地に係る公共施設の総合整備計画（平成 20 年度～平成 24 年度）  
東京都市町村議会議員公務災害補償等組合を組織する地方公共団体の数の増加及び東京都市町村議会議員公務災害補償等組合格約  
組織構成変更に伴う一部変更  
東京都島嶼町村一部事務組合格約  
組合住所の変更  
東京都後期高齢者広域連合格約  
広域連合協議会における規約変更に伴う変更  
第 32 回オリンピック競技大会及び第 16 回パラリンピック競技大会の東京誘致に関する決議議員の派遣  
5 月に開催される議員研修ほかに議員を派遣することを決めました。

## 平成 23 年度予算

【一般会計補正予算（第 5 号）】  
【国民健康保険特別会計補正予算（第 4 号）】  
【簡易水道事業特別会計補正予算（第 4 号）】  
【宅地造成事業特別会計補正予算（第 2 号）】

どこを変えたの？



決算見込みによる減額補正など、おもに年度末に向けた予算の変更をしました。

## 平成 24 年度予算

新年度（平成 24 年度）予算は、予算特別委員会に付託して詳しく審議しました。  
← 詳しくは 8P へ

## 同意

固定資産評価審査委員の選任に同意しました。

小高常義 氏 菊池聰彦 氏  
金子 隆 氏

佐々木

幸美 議長

出張報告



12月19日 山口那津男参議院議員、松原 仁国土交通副大臣ほかへ陳情・挨拶

12月20日 平井たくや衆議院議員、宮腰光寛衆議院議員、二階俊博衆議院議員ほかへ陳情・挨拶

12月21日 金子恭之衆議院議員ほかへ陳情・挨拶

全国離島振興協議会、島嶼町村会、島嶼町村議会議長会合同会議出席及び平成 24 年度離島振興関係国家予算獲得運動

都町村議会議長会の役員会及び臨時会出席

2月15日 東京都町村会 90 周年記念講演出席

2月16日 島嶼町村議会議長会定期総会出席

第 82 回小笠原諸島振興開発審議会出席

2月17日 島嶼振興公社運営委員会、東京都町村議会議長会役員会及び定期総会出席

2月21日 小笠原海運株式会社と新造船建造に関する意見交換

渡辺防衛副大臣へお礼・挨拶（議員 7 名同行）

2月22日 第三管区海上保安本部、横浜海上保安部を表敬訪問（議員 7 名同行）

2月27日 離島振興法改正・延長実現総決起大会、実現要望運動

# 村民の声を村政に問う!!

## 一般質問

## 3月定例会

第1回定例会は、7名の議員から17件の一般質問がありました。



### 片股 敬昌 議員

#### ビジターセンターの案内板と駐車場について

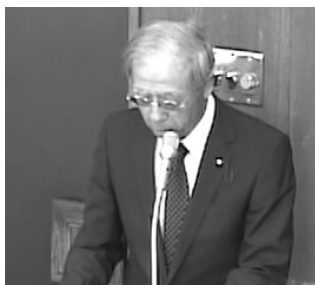
片股議員 入り口がわかりにくいという観光客が多い。大きな標識や矢印等工夫が必要ではないか。また駐車場はとめにくくどこにとめてよいかわからない実情である。対策はないのか。

産業観光課長 ビジターセンターの標識は都道入り口の緑地帯とお祭り広場側にはあるが歩行者からはとらえにくいのが現状。支庁で工夫をするという事で返事待ち。駐車場は現場確認を支庁担当者で行い検討するという事になった。

#### アオウミ亀の産卵時期における砂浜の対応について

片股議員 5〜8月の産卵を妨げないために海岸清掃や障害物の撤去を早めに行うのはどうか。また産卵時期のカメ対応を村民や観光客に知らせる必要はないのか。

産業観光課長 清掃や撤去は現在行っていないが大村海岸等では集落に



行かない、事故が起きないなど様々な工夫をしている。カメのトラブルは海洋センターや母島ファインクラブで適切な措置をすることを小笠原ルールブックや村民だよりで広報している。また自主ルールも観光協会により定められている。

#### 漂流ゴミの回収について

片股議員 とびうお棧橋の奥近辺はいつもゴミがたまっている。今までのように処理していたのか。また今後の方向性を伺いたい。

建設水道課長 平成21年7月成立の「海岸漂着物処理推進法」により責任が明確になった。海岸責任者である国や都に海ごみの処理責任がある。政

府には財政措置義務、村には必要に応じ協力する義務がある。都は処理計画検討に着手したが昨年の大震災で策定作業は延期となっている。現在はボランティアの方々協力で行われている。

#### 財政の健全化と高齢者が地方で安心して暮らせる配慮を

片股議員 交付金に多くを頼る村の財政は、高齢化が進み社会保障費の増大で自治体財政はますます厳しくなる予想される。将来を見据えてどのような村づくりを考えているか。

村長 国からの社会保障と財政健全化の骨格により地方行政は社会保障を具現化することになる。地域の特殊性に伴う独自の福祉行政を展開しなければならぬ。医療、福祉、保健、介護など民生安定の中核となるものを村民の方々と共に着実に健康で住みやすい地域づくりを努めたい。

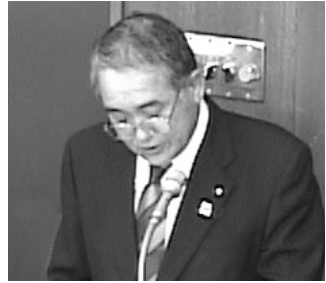
副村長 高齢化率の高まりにより現役・働き世代の現象は懸念されるが地域高齢者の実情に合った柔軟なサービスの提供に努め、時代のニーズに応えられる職場体制をつくり職員の育成に力を注いでいきたい。

# 鯉江 満 議員

## 地場産業の振興について

**鯉江議員** 第一次産業である農業・漁業は伊豆七島の中でも上位の業績があり良好。第三次産業は観光立島を指し自然遺産登録後、来島者が急増し活気にあふれている。そこで第二次産業の経営について伺いたい。製造業者や製パン業者は頑張っているが人口的にも起業に至っていない。特に小笠原ラム・リキユー株式会社においては1、200万円の長期借入金で損失利益として決算している状況。経営改善の考えはあるのか。

**母島支所長** 運営状況は芳しくないのが現状。平成4年の販売開始以降限られた設備、職員体制で販売、小瓶化、はかり売り等を、一昨年は洋菓子メーカーの材料として採用されたり海外への輸出と様々行ってきたが、経営の好転までは至っていない。今後の予定として25度ラム酒の商品化を



進めている。遺産登録後内地からの注文も増えているので新商品の売上げ増に努力していきたい。

**鯉江議員** 現在村・J.A・商工会が株主となっているが抜本的経営改革として第三セクター方式の経営母体を変更し民間経営に移行する考えはないか。

**村長** 経営改善のため経費の削減等努めてきたが小規模な改善にしかならなかった。設立25年は改革を考える時期であろうかとも考える。特産品をつくることで農業振興に寄与し売上げ増につながる。今後抜本的見直しということで総会で話し合っていくきたい。

## 若者支援について

**鯉江議員** 当村は18歳までの人口が全体の20%を示し、平均年齢も39歳台。全国平均よりも6歳程若く将来に多いに希望がもてる地域である。これから巣立つ若者への支援として奨学金制度があるが現在の状況を伺いたい。

**教育課長** 平成11年度より奨学金貸付を実施。3年以上住所があり、所得制限なし、月2万5、000円を6カ月分15万円を年二回交付。償還方法は一年据置十年間。条件によっては償還免除もある。今までは32件、約2、500万円。不納欠損は出ていない。

今年度より進学助成基金の支給を開始。これは小笠原高校在学、内地大学受験時の経営負担軽減の助成金。所得制限付きで定期船往復3万4、000円弱1回限り。今回8件を支給してきた。  
**村長** 遠く1、000kmも離れた内地へ巣立つ若者に現在の支援で十分かどうか再度精査をしていきたい。

# 一木 重夫 議員

## 公務員制度改革について

**一木議員** 優秀な職員には表彰をして職員全体はモチベーションを上げてはどうか。村長が額を定めるボーナスにも反映し、他の職員との差を大きくしてはどうか。

**村長** 一定の成績主義の導入は、モチベーションの底上げにつながる期待がある。これからも実施するようやっていきたい。

**副村長** 表彰の導入は現在永年勤続があるが都国の基準を参考にしながら検討していきたい。働いた者には昇給幅を大きくする。勤勉手当では来年度より、勤勉の労に報いるための給与を支給していきたい。

## 環境保全について

**一木議員** ①電気を重油に頼る当村において太陽光発電とセットになった電気バスの導入はできないものか。国と都の補助金も確保できる見込みだ。②大規模な太陽光発電所を村に導入すること



を検討できないか。村の公共工事はエネルギーと利益を生む事業に転換する必要があるのではないか。

**村長** ①これから進むべき方向性は、一木議員のおっしゃっていることで間違いなく思う。電気バス事業は太陽光発電とセットでなければ意味がない。まだ技術的な問題等々で考えなければいけないところがありますので、ちょっとお時間をいただきたいと思います。

**産業観光課長** ①太陽光活用のバスは自然遺産の島にとっては理想であるが一般車に比べまだまだ先駆的な取組み。この事業に向けては村のエネルギービジョンの見直し、台数、バス事業のあり方の検討が必要。事例となる青森県七戸町や国・都の補助で

電気バスを運行する羽村市を参考に総論的に検討していきたい。

**村長** ②時代が求めているニーズ、方向性はそのとおり。方向性は、よくよくわかってはいるつもりなので、お時間をいただきたいと思います。

**企画政策室副参事** ②太陽光発電所は新たなエネルギービジョンの策定の中で検討していく必要がある。国土交通省の直轄調査によって策定するのにも有効な手段だが、調整が必要。

## 観光振興について

**一木議員** ①高い評価を得ていた地質・地形で世界ジオパークを目指してはどうか。②首都大学東京の小笠原研究施設に常勤の研究者を配置するよう村として要望できないか。調査研究は観光振興と環境保全に貢献する。

**産業観光課長** ①遺産登録と違い、地域主体となる取組みであるので詳細を調べ観光面の有効性も考えジオパークを目指すかどうか検討していこうと考えている。  
**企画政策室副参事** ②研究結果の様々な地元還元方法や効果などを検討した上で、東京都に要望していきたい。

# 稲垣 勇 議員

おがさわら丸ドック中の代替船について

稲垣議員 小笠原海運はドック中、共勝丸を利用して物資や郵便物を輸送しているが定員が少なく村民には大きな障害となつている。観光船をチャーターできないのか。着岸の可否、村と旅行社社の提携などどのように考えるか。



も小笠原海運に働きかけていきたい。

シロアリ対策について

稲垣議員 昨年 6 月に母島集落内にイエシロアリが確認された。その時の状況と対応、外来樹木の対策による影響、今後の対策を伺いたい。

建設水道部長 平成 10

年長浜トンネル周囲で確認されて以来、生息数は減少してきたが生存力の強さ、地形、範囲等で完全抑制には至らない。村の対策として年に 3 回ベテランの防除士と入念に山林を歩き調査、除去。また 6 月にシロアリ対策速報を作成し掲示板等で周知している。更なる検証と具体的な対策が必要であると考えている。

あるので駆除、伐採事業者の責任において影響を調査、対策を行っている。昨年 12 月にシロアリ対策連絡調整会議を発足。年 4 回の会議を通じ情報共有、意見交換、調整を継続的にを行い、共通マニュアル策定を目指している。

稲垣議員 固有種の絶滅対策はあるのか、

また家屋の安全性は、防除対策の村の奨励金ほどの位利用されてきたのかを伺いたい。

建設水道課長 固有種を守ることは外来種対策から始まる。国、都、固有林、環境省と村が駆除対策を効果的に効果的に連携してできるよ

うに調整会議でも意見を

を集約している。

母島支所長 木造建築

の家屋が多い母島ではシロアリ会議の開催、対策団来島時に情報提供の依頼、樹木伐採事業者への事後モニタリングの徹底をしている。

またシロアリ対策奨励金を活用した家屋防蟻処理の推奨も実施。平成元年から 14 年まで 6

件の利用があった。今後各機関と連携し総合的な対策を考え実行していくよう努めていきたい。

# 高橋 研史 議員

震災に伴うガレキ処理について

高橋議員 一日も早い復旧、復興にはガレキの処理が最優先されなければならぬが本島は地理的にまた焼却の処理施設は小規模で協力することはできない状況にある。そこで全国の自治体のケース、復興によせる思いを伺いたい。

村長 なかなか進まないガレキの処理。受入れ自治体の障害事由として、処理できる施設がないが 5 割、放射性物質への懸念が 4 割、地理的に運搬が困難、住民の反発が 2

割である。安全基準のもとと全国民が力を合わせ、各自自治体が協力し合える環境づくりが必要である

うと考えている。

小笠原村観光局の運用状況について

高橋議員 平成 23 年度発足の小笠原村観光局の概要と役割、村の観光振興施策においての重要性を伺いたい。



産業観光課長 対外的な施策として最重要であり関係団体との協力、エコツアーの振興が大きな柱となっている。東京諸島観光連盟に業務委託をし服務規程を設けている。村から仕様書を出しその実施に向け観光事業を行う。予算は約 3、300 万円。メディア

アタイアップ事業は村の直接事業だったが局に委託。局から相談を受け内容を把握し判断の意見を

言い最終的には局の判断に任せている。少ない人数の中で費用協力、取材打合せ等各担当を決め業務を進めている。

高橋議員 村の補助団体である観光協会、ホエールウオッチング協会、商

工会等は年度終了時に監査があるが委託事業はどういう形になるのか。

産業観光課長 委託事業費を 12 カ月、月額で支出。月次報告を取り仕様書に沿った事業が行われたかどうかを確認して委託料を毎月継続的に払う。最終的に実績報告として一年分をまとめて報告する。この形態は一般補助団体の監査と同じ作業と考える。

高橋議員 今年度の目標は地元の観光業者の意見を反映できたか。

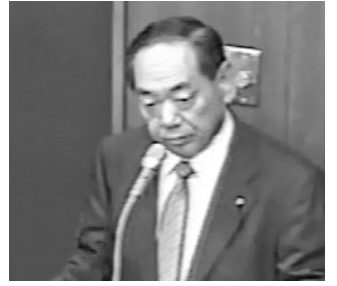
産業観光課長 ツアーデスクから引き継いだ旅行社への説明会、村営のイベントはじめ従来どおりの事業も改めて検証し改善に向け取り組んでいる。来年度は村と局の打合せを行い両観光協会、小笠原海運、ナショナルランド等と連絡会議を開き情報交換をしながら実施体制を相談していきたいと考える。

# 杉田 一男 議員

## 所信表明について

杉田議員 行政として当然やるべき医療、教育、防災、航空路等がある。最重要目標である①航空路開設に向けた新たな取り組み、②防災計画の見直しの考えを伺いたい。また第一次産業の役割は非常に大きく③遊休農地の再利用のあり方、④地産地消の取組みについて伺いたい。

副村長 ④地産地消の持続的な発展を実現するにはかつての行政主導型ではなく、生産者、流通・販売事業者、飲食・宿泊事業者、一般消費者が現場サイドの求める施策を行わなければならないと再確認した。村としては



早い時期に村民の意見を聞き、どんな支援が必要か、どのような支援ができるかを一歩進んで検討し確実な動きが出てくることを期待している。

## 分譲地について

杉田議員 政策の一つであった分譲地23区画のうちいまだに14区画が残っている。自然遺産登録後の今が分譲には良い機会だと考えるがどのように考えているか。

村長 村民の定住促進、扇浦第2集落の充実という目的に事業を進めてきたがなかなか難しい。すでに購入済みの方もいるので価格を下げるのか島外の人も購入者対象にするとか条件を大きく変更してまで売り急ぐべきではないと考える。

## 旧赤間ホテル跡について

杉田議員 進入路が1.2mしかない旧赤間ホテルの出入り口の確保は優先課題ではないのか。天災、人災の可能性もあり区画保持者と話をしてほしい。

池田議員 自然遺産に登録された我が島の自然を将来にわたり保全するのは当然だが、村民の生活の安心安全の確保、経済の活性化等の施策には基幹道路の整備は不可欠と考える。父島の防災機能を兼ねた都道、母島の都道北進線の改修工事の状況を伺いたい。

村長 自然遺産の登録で村民の安全や暮らしに支障が生じてはならない。必要な公共工事は自然保護の立場、事業者の立場各々尊重し合い実施しなければならぬ。三月三日に国有林の保全管理委員会開催。この会が工事等の決定をするため現況を話し協力を仰いでいる。

池田議員 今後の公共工事の進め方としてどのように考えているか。総務課企画政策室副参事 国有林の利活用に関する内容説明や資料提出を更に保全管理委員会に行い事業推進を要請していきたい。また自然遺産登録前から実施する公共工事は関係法令や都が定めた環境配慮指針に基づき環境に配慮しながら進めている。今後も同様に関係機関と調整を図りながら進めていきたいと考えている。

## 池田 望 議員

## 世界自然遺産登録後の公共工事の進め方について

## 池田議員 今回の工事の内容と滞った要因を伺いたい。

池田議員 今回の工事の内容と滞った要因を伺いたい。

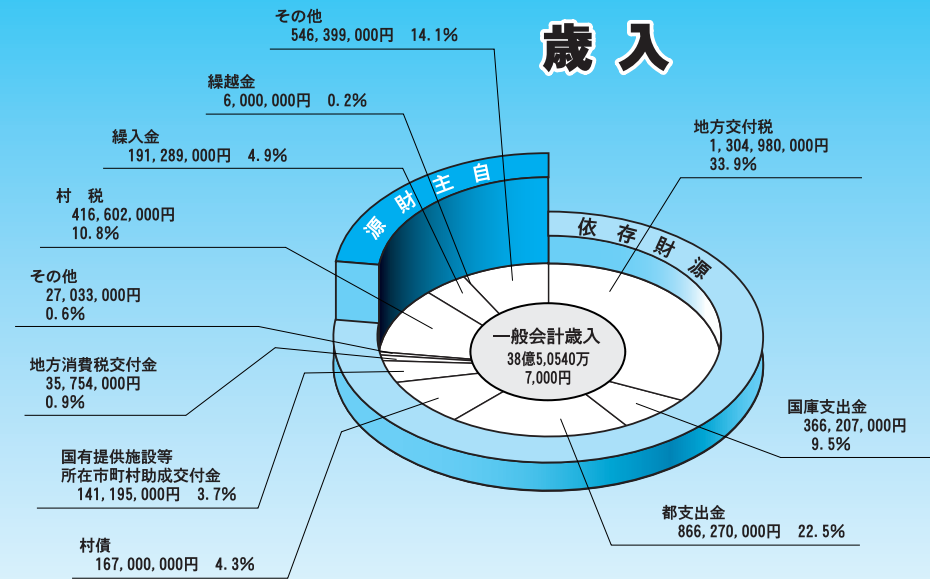


# 【平成 24 年度一般会計当初予算】

## 予算特別委員会

平成 24 年度

委員長 稲垣 勇  
副委員長 片股 敬昌



### ※一般会計 38 億 5040 万 7000 円でスタート

#### 《主な質疑》

**問** 人口が減ったわけではないのに、個人村民税を少なく計上しているのは何故か。

◇歳入◇  
〈池田委員〉  
23年度の課税実績をもとに算出している。近年観光客が増えており、24年度の課税に影響すると考えられるが、その点は反映させていない。

**問** 扇浦分譲地は、返還があったにも関わらず歳入予算を増額して計上している。販売実績に基づいて計上しなくては、販売努力の意識がそがれるのではないか。

〈杉田委員〉

**答** 今までも住民の方との意見交換などを行い、販売努力をしてきた。扇浦分譲地を造成した時の事情もある。当時のことも考慮しながら判断したい。

**問** 硫黄島基地の交付金が減っている。大変ありがたい交付金で、減額は大変なこと。減った部分をどう努力していくのか。

〈池田委員〉

**答** これまでも、国への予算要望を陳情している。また、硫黄島の国防の役割や存在意義を伝えていきたい。今後も、財源確保の努力をしていきたい。

**問** 硫黄島遺骨収容作業は、最後の一柱まで収容するのは難しいのではないか。どの時点がけじめをつけるときか。

◇歳出◇

**答** 旧島民の皆様の最後の一柱までという思いを私たちも受けとめ、一人でも多くご帰還できるように努力をしていきたい。

〈片股副委員長〉

**問** 新設した専門委員について、適材がないので新たに非常勤職員として採用することだが、今後の人材育成についてどう考えているのか。

〈高橋委員〉

**答** 10年先を見据えた形で組織改正を議論していきたい。

**問** 航空路予算の減額の理由は、事業を実施する際、説明が遅いと議会から指摘があった。今回は当初予算で計上せず、議会で事業説明後、補正予算で対応したい。

〈鯉江委員〉

**問** 母島保育園の建て替えをしないと、入園予定の児童の対応が難しいのではないか。

〈佐々木議長〉

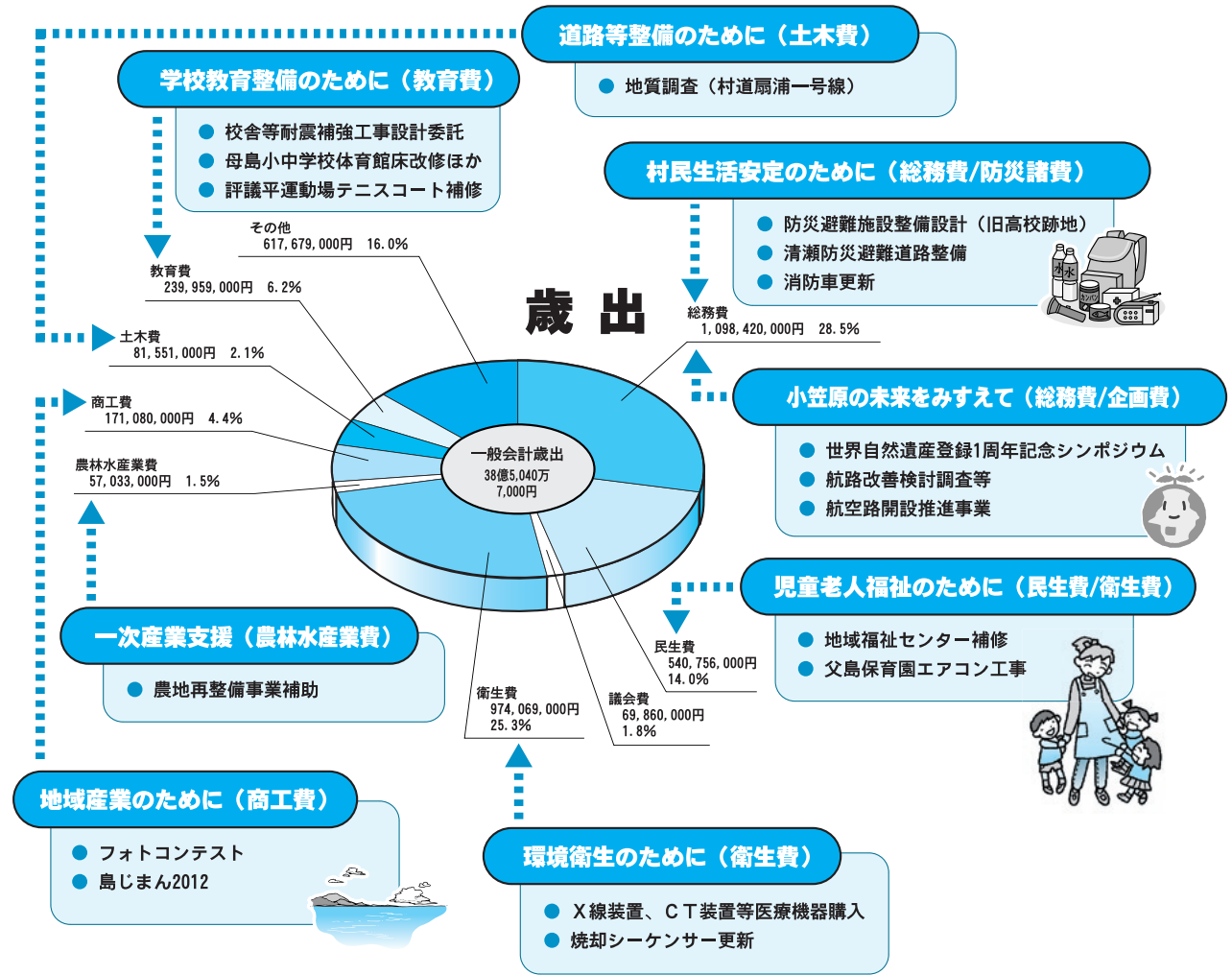
**答** 施設の改装、人員体制など、万全の体勢をとっていく。村民会館から独立した保育園を作ることは当然視野に入れていくが、振興法の流れの中で作業しなくてはならない。

**問** 母島の集落地でシロアリが発見されたのは非常に大変なこと。母島の皆さんに防蟻工事の広報をしていただきたい。

〈杉田委員〉

**答** 母島は木造の方が多い。シロアリ防蟻処理の奨励を進めていきたい。





**問** 高齢者の肺炎球菌のワクチンの接種助成を提案しているが予算化したか。  
**答** 提案を受けた費用の助成を計上した。（一木委員）

**問** 公務で出張する診療所医師のおがさわら丸は現在2等医師住宅も提供している中、1等にすべきでは。  
**答** 検討課題としたい。（一木委員）

**問** 小曲の大砲を村の文化財に指定できないか。  
**答** 戦跡は文化財としてなじまないとの判断をしている。（片股副委員長）

**問** 補食給食費は村の単費で300万円出している。選択制にして保護者から徴収すべきでは。この予算を出産費補助に充当して10万円上げてはどうか。  
**答** 出産費補助は不足している金額ではない。保護者の意見を聞いて補食給食のあり方を考えていく。（一木委員）

**問** 観光に携わる方が、この現状をきちっと分析していただくことが肝要。  
**答** 観光マーケティング調査で満足度が落ちてきているが、村長の感想を。（高橋委員）

**問** 経費削減になるので進めていきたい。ただ、同じ条件が各島で揃わないといけない。  
**答** 経費削減になるので進めていきたい。ただ、同じ条件が各島で揃わないといけない。（一木委員）

**問** 戸籍や住民基本台帳等を総合行政システムは年間4200万円の経費。伊豆諸島・小笠原で一元化し、一部事務組合で運営してもらおうことで経費削減できないのか。  
**答** 経費削減になるので進めていきたい。ただ、同じ条件が各島で揃わないといけない。（一木委員）

**問** 住宅困窮者の住宅不足がある。村営住宅はどうか。  
**答** 単刀直入にお答えするとなかなか難しい。（鯨江委員）

**問** 住宅困窮者の住宅不足がある。村営住宅はどうか。  
**答** 単刀直入にお答えするとなかなか難しい。（鯨江委員）

**意見** 高齢化が進む中で村の財政も大変になってくる。孤独死の課題も目が離せない。村長を中心に頑張ってもらいたい。（片股副委員長）

**問** 診療所の運営について不安がないか。将来の展望はどうか。  
**答** 時代の背景を踏まえながら、医療の質と幅を広げていくのが大きな課題。（池田委員）

**答** 執行部と議会のお互いの権能を尊重しても、説明不足があれば各課長に指示していきたい。（杉田委員）

**【採決】**  
 平成24年度各会計予算は、可決すべきものとして報告され、3月23日に本会議において原案通り可決されました。

委員会	
活動報告	

平成24年3月9日



# 総務委員会

## 【世界自然遺産について】

これまでの経過報告を受けました。

**問** ユネスコから勧告を受けている観光と自然保護の課題、インフラ整備と自然保護の課題、これらの課題について地域連絡会議の作業部会で話し合いを持つ予定はあるのか。

**答** 今、課題の洗い出しをしている。公共事業について話し合った方がいいとなれば、関係機関と連携して話し合う。

**問** 今後、国・都・村はどのような役割分担をしていくのか。村が積極的にかかわって、村の考え方を主張して進めていく良い時期ではないか。

**答** 役割はまだ決まっていないうところが多くある。今後遺産センターを作るにあたり、村のかかわりを協議していく。これから管理計画や遺産センターを作っていく際に、村の考え

方や要望をきちんと発信していかななくてはならないと考えている。

**問** ソニーの3D映像の広報を充実させて欲しい。母島で中止になったが、見せる機会を作って欲しい。

**答** 全戸配布のチラシを検討する。ソニーと調整をして母島での開催を検討したい。

## 【父島浄水場の移転について】

工事の大きなスケジュール、簡易水道施設の認可変更に伴い給水区域の変更を行うことなどの説明を受けました。

## 【防災道路の整備について】

・振興開発審議会委員4名の現地視察の際、防災道路の説明を行った。のちの審議会において、津波防災対策において必要不可欠であり都に要望している旨の説明を行った。また、委員から防災道路は必要である旨の発言が

あった。  
・来年度の避難道、避難所の整備についてこれまでの経過説明を受けました。

**問** 都は住民からもう一度反対運動が出ることを不安に思っている。署名や要望書などを取りまとめることについて、どう考えているのか。

**答** 住民の理解を得る作業は必ず必要で、それができないと考えている。

**問** 平成24年度予算で計上している避難所の設計とは、どういったものか。

**答** 奥村地区で旧高校跡地に避難しなければならぬ人は、200〜300人いると想定している。そこに安心して避難できる建物やトイレなどの設備、防災倉庫、自家発電や太陽光発電の導入など、総合的な調査設計を行う予定だ。次年度以降に建設にかかりたい。

## 【生活排水使用料の改定について】

**問** 使用料改定は財政健全化の一環とのことだが、具体的な村の財政健全化をどのように考えているのか。

**答** 支出を抑えるだけでない努力が必要。生活排水使用料はおよそ20年据え置かれてきたが、村民の皆様には負担をお願いしなくてはならない時期に来たという判断だ。

**問** 懇切丁寧な説明を、村民合意を得るための努力をしていただきたい。

**答** 議会での審議、議決という手続きを踏んだうえでこのことになるが、周知していきたい。

**問** 総務省指針が月3,000円という村役場の説明資料があるが、この書き方に疑問がある。総務省が設置した研究会の学者達が月3,000円を指すべきと書いているだけで、総務省が月3,000円を目指している訳ではない。

**答** 委員が指摘のとおり。総務省の外郭団体に多分委託に出された調査だと思う。

## 【その他】

・沖ノ鳥島について  
〈委員提案議題〉

高橋委員から議題提案理由の説明

**問** 沖ノ鳥島は、排他的経済水域や国防の面から大きな位置を占めている。小笠原の行政区画として現状を把握しなければならぬ。1月22日に開催されたと主催の沖ノ鳥島フォーラムの報告を求める。

**答** ほぼ満員で、一般参加者も多かった。初めて知る事実や実験も多く、今後も担当者が参加していくべき。

**意見** 水産庁のサンゴ増殖事業は、沖ノ鳥島で採取したものを沖縄で増殖したと聞いている。小笠原にもできることがあると思う。今後とも情報収集をお願いしたい。

**問** 沖ノ鳥島に村が関わることで小笠原の振興にも役に立つ。今後とも沖ノ鳥島に着目し、変化があれば議会にも説明をしていただきたい。

**答** 情報を収集するとともに発信していきたい。議会にもご報告していきたい。

〈高橋委員〉  
〈池田委員〉  
〈佐々木議長〉  
〈杉田委員〉  
〈高橋委員〉  
〈池田委員〉  
〈杉田委員〉



平成24年3月9日開催

【答】 殆どのご遺体はわからない。千鳥ヶ淵に納骨させていた。名前がなかった場合には遺族におかえしている。

【その他報告事項】

- ・ 平和祈念公園管理事業
- ・ 硫黄島戦没者追悼式（都主催）1月25日実施。旧島民墓参（都主催）3月23日実施。
- ・ 硫黄島慰霊巡拝（国主催）12月14日、3月1日実施
- ・ 3月14日日米硫黄島戦没者追悼顕彰式などの報告を受けました。

【問】 村議会で硫黄島視察を行った際、隆起によって、釜岩の港が上がってしまった。村の訪島事業の際、使えるのか心配だ。

【その他】

【問】 執行部からこれまでの説明を受けました。

【問】 民生安定化懇談会はどのようなことを話し合ったのか。

【答】 世界遺産登録後、観光客が増えていることに対応策、また、航空路関連においては、それぞれの委員が専門的な見地からの意見などが議題としてあがった。只今議事録を作成中で、完成後はホームページで公開したい。

【問】 P-1をいかにすすめるか、24年度は一步でも先に進めることが大事。村長の考えは。

【答】 都の行政部港湾部との情報交換は、実務的な位置づけにおいて大変有意義であると思っている。また、民生安定

化懇談会でそれぞれの専門家の有識者の方々の意見を聴くことにより、航空路を進めるために役立つ思っている。

【問】 民生安定は世界遺産より大事。世界遺産のパンフレットだけでなく航空路のパンフレットを早く作成して、航空路に取り組んでもらいたい。

【答】 出来るだけ早く作成し、全戸配布また、マスコミや観光所、国会議員の方にも配布したい。



平成24年3月9日開催

【問】 調整金は、燃料油が高騰し、経営努力によっても補うことができないから導入した。おがさわら丸の乗客数が増え、経営状況は改善されていると思われる。燃料価格変動調整金の見直しや撤廃を海運に進言してはどうか。

【問】 調整金の条件がそれだけだったと思っていない。調整金の性質、意味合いを精査していきたい。

【問】 観光客が増え、村民がおがさわら丸の切符を買

【問】 民生安定は世界遺産より大事。世界遺産のパンフレットだけでなく航空路のパンフレットを早く作成して、航空路に取り組んでもらいたい。

【答】 出来るだけ早く作成し、全戸配布また、マスコミや観光所、国会議員の方にも配布したい。

【問】 執行部からこれまでの説明を受けました。

【問】 民生安定化懇談会はどのようなことを話し合ったのか。

【答】 世界遺産登録後、観光客が増えていることに対応策、また、航空路関連においては、それぞれの委員が専門的な見地からの意見などが議題としてあがった。只今議事録を作成中で、完成後はホームページで公開したい。

【問】 P-1をいかにすすめるか、24年度は一步でも先に進めることが大事。村長の考えは。

【答】 都の行政部港湾部との情報交換は、実務的な位置づけにおいて大変有意義であると思っている。また、民生安定

化懇談会でそれぞれの専門家の有識者の方々の意見を聴くことにより、航空路を進めるために役立つ思っている。

【問】 民生安定は世界遺産より大事。世界遺産のパンフレットだけでなく航空路のパンフレットを早く作成して、航空路に取り組んでもらいたい。

【答】 出来るだけ早く作成し、全戸配布また、マスコミや観光所、国会議員の方にも配布したい。

う際に支障がでているのではないかと。村民枠はどのように割り振られているのか。

【答】 一定の村民枠は確保しているが、乗船客が増えたことにより一等等など、上級席が買わずらくなっている。村民枠を増やしていただきたいという申し入れを行っている。また、病気の方などはトイレに近い部屋にしたいなどの配慮をしている。海運とも調査してみたい。

【問】 ははじま丸の乗船券は当日売りだと聞いていたが、団体客はすでに切符を持っている現象がある。村民を含めた一般客がキャンセル待ちが生じているのが現状ではないのか。

【答】 ははじま丸は生活航路であり、あくまでも村民が優先。村民が乗れないということがあってはならない。団体は一定の範囲でおこなっている。

【問】 母島への観光客は多くなったが、ほとんどが日帰り。ははじま丸が毎日往復すれば、宿泊のツアーが組みやすくなる。多便化をどう考えるか。

【答】 運航会社だけでなく、補助金を出している国や都とも相談しなくてはならない。ははじま丸の更新が迫ってきていることも考慮し、議論していきたい。

【問】 執行部からこれまでの説明を受けました。

【問】 民生安定化懇談会はどのようなことを話し合ったのか。

【答】 世界遺産登録後、観光客が増えていることに対応策、また、航空路関連においては、それぞれの委員が専門的な見地からの意見などが議題としてあがった。只今議事録を作成中で、完成後はホームページで公開したい。

【問】 P-1をいかにすすめるか、24年度は一步でも先に進めることが大事。村長の考えは。

【答】 都の行政部港湾部との情報交換は、実務的な位置づけにおいて大変有意義であると思っている。また、民生安定

化懇談会でそれぞれの専門家の有識者の方々の意見を聴くことにより、航空路を進めるために役立つ思っている。

【問】 民生安定は世界遺産より大事。世界遺産のパンフレットだけでなく航空路のパンフレットを早く作成して、航空路に取り組んでもらいたい。

【答】 出来るだけ早く作成し、全戸配布また、マスコミや観光所、国会議員の方にも配布したい。



平成24年3月9日開催

【南鳥島への行政視察について】

・ 委員会の冒頭、南鳥島への行政視察について一木委員長が支援を頂いた防衛省、現地で協力頂いた国交省と気象庁に謝意を表しました。

【NLP（日米再編）について】

・ 経過説明を受けました。

【遺骨帰還について】

【池田委員】

【問】 24年度の実施計画はどのようになっているのか。

【答】 試掘調査を行い、発見できたら集中して行う。また、滑走路西は8月下旬ごろから収容したい。

【問】 発見された遺骨は、身元が分からない方は靖国神社の方へ行くということもあるのか。

【片股副委員長】

【問】 執行部からこれまでの説明を受けました。

【問】 民生安定化懇談会はどのようなことを話し合ったのか。

【答】 世界遺産登録後、観光客が増えていることに対応策、また、航空路関連においては、それぞれの委員が専門的な見地からの意見などが議題としてあがった。只今議事録を作成中で、完成後はホームページで公開したい。

【問】 P-1をいかにすすめるか、24年度は一步でも先に進めることが大事。村長の考えは。

【答】 都の行政部港湾部との情報交換は、実務的な位置づけにおいて大変有意義であると思っている。また、民生安定

# 議会の動き

## < 3 月 >

- 1 日 全員協議会  
議会運営委員会
- 7 日 全員協議会
- 8 日 本会議 (1 日目)  
総務委員会  
硫黄島調査特別委員会  
小笠原空港開設・航路改善特別委員会  
本会議 (2 日目)
- 19 日 小笠原中学校卒業式
- 20 日 母島小中学校卒業式
- 21 日 予算特別委員会
- 22 日 予算特別委員会
- 23 日 本会議 (3 日目)
- 27 日 例月出納検査

## < 4 月 >

- 2 日 辞令交付
- 3 日 辞令交付
- 10 日 母島小中学校入学式  
小笠原小学校入学式  
小笠原中学校入学式  
小笠原高校入学式
- 26 日 例月出納検査

## < 5 月 >

- 11 日 都議長会役員会・臨時総会  
都町村議会議員講演会
- 18～20 日 下田黒船祭
- 21 日 臨時議会

- 議会だよりは、紙面の都合上、文章や内容を割愛したり、要約をしたりして掲載しています。
- ぜひ、議会を傍聴してみてください。
- また、会議録のお問い合わせはこちらへどうぞ。

### ■ お問い合わせ先 ■

小笠原村議会事務局

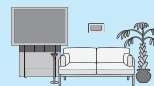
TEL 04998-2-3118 FAX 2-3208



次回の定例会は

## 6 月中旬開会

の予定です



※村役場・福祉センター・母島支所のテレビで議会中継をご覧になれます。ぜひご利用ください。

## 編集後記

小笠原村として初めて、南鳥島への行政視察が村議会の主導で実現できました。硫黄島調査特別委員会での長年に渡る政府への働きかけによって、ようやく実を結びました。

昨今、沖ノ鳥島、尖閣諸島、竹島等の離島において、近隣諸国と領土を巡るトラブルが起きており、国境に接する離島の保全が、国民的な関心を呼んでいます。政府は国境離島である小笠原村の南鳥島と沖ノ鳥島の保全のために、法律を整備しました。その法律に基づいて、南鳥島では250億円、沖ノ鳥島は750億円もの巨費を投じて、平成27～28年度までに港を整備する予定です。このようなタイミングの中、村議会という住民の代表が、戦前暮らしていた村民の先輩達が眠る南鳥島に再び上陸し、村民としての新たな軌跡を残したことは、大変意義深いと感じています。

議員だより編集委員

- 一木 重夫
- 高橋 研史